

『環境福祉学会新春セミナー』

日 時 2007年2月4日(日) 13:30~16:30

会 場 ホテル「はあといん乃木坂」(健保会館)213会議室

テーマ『「自然環境力」による福祉の向上に関する研究』

基 調 講 演

13:30~13:50

『問題提起-「自然環境力」の活用とは-』

学会副会長(前環境事務次官)

炭谷 茂氏

パネルディスカッション

14:00~16:30

コメンテーター： 学会副会長(前環境事務次官) 炭谷 茂氏

司 会： 学会副会長(創造学園大学学長) 堀越 大哲氏

パネリスト：

14:00 - 14:25 「超高齢社会に貢献する園芸療法

自然活用型・市民参加型・社会変革型医療の構築と場の創造を目指して」

・金沢大学大学院 助教授(学会理事)

安川 緑氏

14:25 - 14:50 『「自然環境力」による福祉の向上

豊かな自然環境が育む人と福祉(障害児キャンプの実践から)」

・社会福祉法人朝日新聞厚生文化事業団 事務局長

池田 守氏

14:50 - 15:15 「現代的温泉療法 温泉を活かした健康づくり」

・北海道大学 名誉教授

あぎし ゆうこう
阿岸 祐幸氏

15:15 - 15:40 「マーケティングの視点から」

・社団法人日本アロマ環境協会 理事

宇田川 僚一氏

15:50 - 16:30 「質疑応答」

「自然環境力」による福祉の向上

環境福祉学会副会長
〔財〕休暇村協会理事長
前環境事務次官
炭谷 茂

1 「自然環境力」とは

人間は、原始の時代から自然の莫大な恵みを受けて来た。豊かな自然によって私たち人間は生きているとも言える。私たちは、それを経験的に実感している。森の中に佇んでいると魂が癒されると感じるし、草原を走って来る風は、すべての人を詩人にする。自然の力は、無限である。

それを仮に「自然環境力」と包括的に呼び、福祉の向上にどのように役立っているかを究明するとともに児童、高齢者、病気の人、障害者などを含めた人一般に対する心身も健康の向上、安らぎや癒しといった精神的効果（spiritual）に応用の方法を開発することは、極めて重要なことであると考えられる。これは環境福祉学会の目的にも合致することである。

2 「自然環境力」の範囲

「自然環境力」の範囲は、多岐にわたる。大学、学会、研究会、企業、各種団体・機関などで研究、実践が行われている。例えば次のようなものがある。

森林療法
園芸療法
温泉療法
アロマセラピー
里山療法
海浜セラピー
乗馬セラピー
ペットセラピー
いるかセラピー

この場ではア・プリオリイに排除することなく、広く検討の対象にするこ

ととしたい。

3 「自然環境力」の効果

「自然環境力」にはその分野によって様々な効果が期待されるが、一般的には次のようなことが挙げられる。

身体的効果

疾病・障害の予防
疾病・障害の治療・改善
病後の保養

心理的精神的效果

ストレスの解消
安らぎ
癒し
感性
情緒

社会とのつながり

ソーシャルインクルージョン
人との交わり

学習効果

水
土
大気
動植物
環境保護

しかし、その効果について、分野によっては科学的実証的な検証が不十分なものが存在することも事実であろう。

副作用の問題は比較的薄いとしても多額の費用を費やすなど消費者保護の見地などからの問題も生じうる。

従って 科学的エビデンスを蓄積し、効果的経済的な方法を追及することが必須である。

4 「自然環境力」への期待

「自然環境力」は、3の直接的効果のみならず、レクリエーション効果、産業振興による経済効果、まち活性化が期待される。

この事例は、日本各地の昔からの温泉町、エコツーリズムなどに具体的に
見ることが出来る。

ただこれらの地域ではかつてのような勢いがなかったり、掛け声倒れにな
っている地域も少なくないのが実情だろう。

一方、成功している事例も大変多い。

ドイツのクアハウス

ノルダナイ島

アドリア海

5 「自然環境力」を効果的に活用する為のポイントと環境福祉学会の役割

各分野での科学的研究の深化と蓄積

「自然環境力」という包括概念の使用

未開発の自然環境力の発掘

各分野での効果的な方法の開発と情報提供

他の要素（歴史遺産、芸術、文化、芸能等）を加味すること
による独自の効果

まち(面)を単位とした取り組み

「自然環境力保養地」

人材の養成

環境福祉コーディネーターの業務の一部として

超高齢社会に貢献する園芸療法

～ 自然活用型・市民参加型・社会変革型医療の構築と場の創造を目指して～

環境福祉学会 理事
金沢大学大学院医学系研究科保健学専攻 助教授
安川 緑

はじめに

園芸療法は補完・代替医療(Complimentary and Alternative Medicine)のひとつに数えられるものです。近年、こうした新しい形の医療が台頭してきた背景には、西洋医学一辺倒に偏ってきたこれまでのわが国の医療を見直し、より豊かでこころにも身体にもやさしい医療を求める、多くの国民のニーズがあります。園芸療法以外にも森林療法や温泉療法、アロマセラピー、動物介在療法等々、自然の諸要素を医療や福祉に活用したものは多種多様です。今後、こうした流れは従来にはない新たな価値や文化を生み出し、大きなうねりとなっていく可能性さえ秘めています。

今回の新春セミナーでは、環境を活用した健やかで美しい日常生活やライフスタイルの確立についてディスカッションし、環境福祉学会員の皆様と共に、次代に向けての具体的戦略を描く出発点にしたいと思います。

21 世紀型の新しい医療の創造に向けて

- ◆ 人間にやさしく、地球にもやさしい
 - 自然のもつアイテム、気候、地域環境を活用
 - つながり合うケアから新しい地域創造へ
- ◆ 多様化する人々の個別なニーズに対応
 - 西洋医学一辺倒の医療からの脱却
- ◆ 新しい価値・文化を創出
 - 単なる健康から美しい健康を追求
 - 華麗なる加齢への挑戦

環境を活かした 21 世紀型の持続可能な福祉社会のモデルの提示が急がれる！

. 園芸療法とは？

- ・ 園芸と園芸療法
- ・ 適用の範囲
- ・ 歴史的経緯

. 園芸療法の効果について

1. からだへの効果
2. こころへの効果
3. 社会とのつながりをもつことの意義と意味

. 園芸療法の独自性

1. 植物の利用

- ✓ 植物が有する物質の効果: 京都工芸繊維大大学院の中島敏博教授が行った実験によると、ラットの四肢を縛ってストレスを与え、血中で副腎皮質ホルモン(ストレスホルモンの一種)が増加した状態にさせたあと、2 時間拘束したまま緑の香りの代表物質である青葉アルコールと青葉アルデヒド混合液を 30 分間かがせたところ、このホルモンの量が半減していた。また拘束を解いて 2~4 時間後に 30 分間かがせたところ、拘束する前の状態に戻った。
→ なんらかのストレスを受けた状態で緑の香りがかぐと、ストレスをなくしてくれる効果があるということが明らかとなった。
- ✓ 植物が有する多面的な特性や利点を活用
 - ・成長・変化する 人生の振り返り、命を考える機会
 - ・収穫物を食す 健康学習への応用
 - ・クラフトに活用できる 趣味活動の拡がり

2. 庭の効用 <なぜ、幼稚園をキンダーガーデンというのか>

- ✓ 風景そのものから得る安堵感、また、風景を形づくりに自らが関わったことで得る達成感や愛着(手入れしたことははっきりと目に見える成果として満足感を与える)
- ✓ 外部の人たちとの交流の機会や場となる

. なぜ、今、園芸療法なのか？

- 人口動態の著しい変化と介護予防
- これからの国民病 うつ病と糖尿病、そして認知症の治療への適用
- 環境問題
- 食料問題
- 教育問題

. 園芸療法の可能性について

楽しみながら健康になる 園芸を通じた健康増進

- 介護予防
- 食と健康/食育への活用(アグリウエルネス)

楽しみながら美しくなる 園芸を通して若返り

- アンチエイジング

楽しみながら街を活性化 園芸を通じた交流と連帯

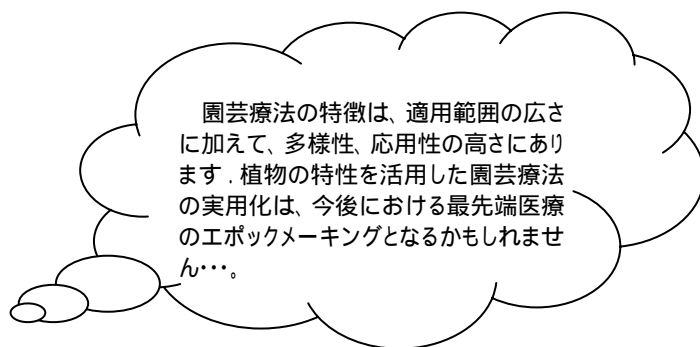
- 環境美化
- 地域連携
- 世代間交流
- 安全な街づくり

園芸療法を普及するためには

- 研究データの集積 普及にはバックデータが必要。
- 公共性の理念に基づいた普及活動の推進 市民が求めているものを具現することが大切。
- 新需要領域・新市場開拓のための「新たな普及活動体系」の開発
- 選択可能な多様性と付加価値の集積 - 顧客のリピートを生むためには？
園芸療法がきっかけとなり自分自身を取り戻す人も。園芸療法は特別な意味をもった機会・場を個人に提供することが可能。「園芸療法エクスペリエンス」(これまでになかった体験)なるものを創り出すことが重要。

園芸療法を活用した創造的地域医療では

- ◆ 治療は地域コミュニティで
 - 身近な医療 Mobile Medicine
 - 私もあなたも参加
 - 環境を活用した健康づくり
- ◆ 医療に芸術的要素を
 - 人が集うにぎわいの場 + 自然 + 芸術
 - 非日常的空間の創出
 - 質の高い医療の実現



結びの言葉にかえて * * * * *

人間は変化と共に生きていく必要があるし、
一生を通じて何回も自分を発見し、
再発見する必要がある。
人生を解きほぐすことによって、
我々は人生の贈り物の価値を大きくすることができる。

「WHY SURVIVE? - BEING OLD IN AMERICA」 Robert N. Butler

* * * * *

以上

『自然環境力』による福祉の向上 ～ 豊かな自然環境が育む人と福祉(障害児キャンプの实践から)～

社会福祉法人朝日新聞厚生文化事業団 事務局長
池田 守

1. 新時代(21世紀)のキーワードは「共生 = 共に生きる」

社会の一員として求められるキーワード。

自然環境との共生(共存)が『地球市民』の福祉向上に多面的な影響を及ぼす。

2. 「共生の社会」づくりを担うボランティア活動

「共生 = 共に生きる」 + 「共生の社会」づくりを担うボランティア活動 + 自然環境

3. 朝日キャンプの实践活動

- ・歴史と概要 朝日新聞厚生文化事業団が主催、運営。
 - ・1953年に大阪に初めて創設
(アサヒ生駒山キャンプセンター)
 - ・61年に名古屋(アサヒ梶島キャンプ場)
 - ・66年に東京(朝日臨海福祉センター)
 - ・72年に西部(北九州)(朝日高原福祉センター)
 - ・現在、キャンプ事業は事業団の直接運営を離れ、東京、大阪、名古屋では、キャンプ活動に参加した学生ボランティアの卒業生らが設立したNPO法人などが主催している。
- ・参加者 当初は「青少年の健全育成」が目的で一般家庭の子どもや児童福祉施設で暮らす子どもたち。現在は知的障害や自閉症、学習障害、不登校の児童・生徒や兄弟・姉妹。ボランティアの大学生とともに生活。
- ・意義 質の良い野外活動、レクリエーション活動体験の提供
非日常の人とのかかわり
両親・家族にとってのレスパイトケア
参加者(障害児)の正しい理解者を増やす
- ・ボランティア 朝日キャンプの特徴の1つ。大学生らが新聞公募で参加。専門家の指導を受けて必要な知識と技術を学ぶ。

4. 朝日キャンプに生きる「ローマライゼーション」の理念

今日、障害者も健常者も誰もが「自分らしい生き方のできる社会をめざそう」とする「ノーマライゼーション」と呼ばれる理念が基盤。

今、誰もが「生活・人生の質」を高めることの重要性が指摘される。

朝日キャンプは、この「生活・人生の質」の向上のために大きなポイントなる「余暇活動の充実」と「対人関係の広がり」に大きな役割を担っている、と言えよう。

豊かな自然環境(森林・海浜)の中で展開される余暇活動や新たな対人関係づくりがもたらす効果は、日常生活環境で行われる余暇活動、対人関係づくりに比べて、はるかに大きなものであり、自然は「人を育む力」を備えている。

参加者(障害児・者、健常な兄弟と姉妹、不登校児童・生徒)は……。

ボランティアは……。

参加者の両親・家族は……。

非日常の体験、経験を日常化することの大切さ

……ノーマライゼーションの基本理念と一致する。

そして……従来の社会的弱者を援助するという考え方からウェルビーイング (well-being 健康で幸福な暮らし)の理念が広がりつつあり、誰もが一生を通じて心豊かに暮らせる新しい福祉社会が求められている。

……「『自然環境力』による福祉の向上」はウェルビーイングの理念に基づき、心豊かに暮らせる新しい福祉社会の構築の大きなポイントになる。

現代的温泉療法

～温泉を活かした健康づくり～

北海道大学名誉教授
阿岸 祐幸

はじめに

現代の温泉療法は、

1. 狭義の温泉療法：医療としての「治療・療養・リハビリテーション」と、
2. 温泉ウエルネス：一次予防、二次予防に重点をおいた「積極的な健康づくり」、
「生活習慣病・ストレス関連性疾患の予防」を行う「休養・保養」がある。
いずれも、原則的に現代医科学的な裏づけにもとづく。

温泉療法とは

地下の天然産物である温泉水、天然ガスや泥状物質のほか、温泉地の気候要素なども含めて医療やウエルネスに利用すること。

温泉浴ばかりでなく、各種の水治療法、プールでの水中運動、屋内外での運動・スポーツ、食事療法、ストレス解消療法などを組み合わせる。

健康生活に必要な休養・運動・栄養療法が同時にバランスよく行う。

温泉の種類と効能・療養泉

温泉は、「地中から湧出する温水、鉱水、水蒸気、あるいはその他のガス（炭化水素を主成分とする天然ガスを除く）で、温泉源での温度が25℃以上のものか、特定の物質のうち、いずれか一つが基準値以上を含むもの」と定義されている（温泉法第2条）。

温泉のうち、泉温、溶けている成分の質、量などからみて、「薬理的に医治効果が期待されるもの」が療養泉であり9種類ある。表1には各泉質と主な効能を示してある。

温泉は老化する

地表から十数キロも深い高温・高圧の地下で出来た温泉は1気圧、15℃の地表に湧き出て、空気(酸素)に触れると物理化学的性質に変化をおこし、沈殿や結晶をつくる。

地下ではよく溶けていたガス成分も空気中に蒸散する。温泉は地上に湧出後、どんどん物理化学的性質が変わり、生物活性も劣化する。これが温泉の老化現象で、鉄泉、二酸化炭素泉（炭酸泉）、硫黄泉（硫化水素泉）、放射能泉などで強くみられる。温泉を循環・ろ過などを繰り返すとますます劣化が強まる。温泉の生体への効果を期待するには、湧き出た直後の新鮮な温泉を直接利用するのが最も望ましい。

温泉浴の作用

1. 浮力で体が軽くなり、運動しやすくなる（リラクゼーション、リハビリに応用）。
2. 静水圧による心臓への過重な負担は、浴中の体位を工夫して半身浴や寝浴にすると無理がかからない。
3. 温浴（37～40℃）では、血流や代謝が増加し、筋・関節組織が柔らかくなり、

鎮痛、鎮静効果がある。42 以上の高温浴では交感神経系が興奮し、血圧上昇、血液凝固などがおこり体によくない。とくに高齢者では危険性が多い。

温泉はなぜ効くか（図 1）

温泉療法では、温泉浴が基本であるが、温泉地に転地して暫らく滞在し、休養、運動、食事療法など組み合わせて療法するのが原則である。また、温泉地の気候や森林、山岳、海など地形、自然環境の影響も重要である。温泉療法は同時に気候療法でもある。

体はこれらの複合刺激を総合的に繰り返し受けて、生体機能が次第に変調していき、体が本来もっている自然の治癒力が強化され、生体防御機能が強まる。

温泉療法の適応と禁忌

温泉療法は一種の刺激療法であるので、利用者はこれに十分反応できる予備能のあることが必要である。

適応症としては、一般に薬物療法の対象とならないような老化現象、変性性疾患、機能障害の症状やゆがんだ生体リズムを正常化したり、健康増進作用が期待できる場合などである。表 2 に、温泉療法が医学的に有効であることが認められている疾患や症状を示している。

今後は生活習慣病の予防、積極的な健康づくりで健康寿命の延長、介護予防などの目的で活用されるようになるだろう。

温泉療法は、ステロイドや抗生物質による薬物療法のような即効性はないが、容易で安全、繰り返しできる。副作用はない。QOLの向上がみられる、などの特色がある。

温泉ウエルネスと健康保養地

ストレス社会、高齢社会である現代では、心身のバランスがとれた健康生活を維持し、生活習慣病を予防するためにも、休養と運動が同時にできる温泉療法のような現代医学的に管理された自然療法が最も適している。

気候や地形が日常生活と異なる温泉地に転地し、滞在中は温泉浴、静かな場所での睡眠、読書、散策などの受動的休養で心身がリラックスできる。これからの温泉地は、温泉プールでの軽い水中運動、森林浴、競いのないスポーツなどの積極的な休養行動が出来る受け皿としての設備やソフトメニュー、マンパワーが必要になるであろう。

これからの温泉地は、その地域の温泉、気候、地形の特異性を活かした「健康保養地」として、一次、二次予防が同時に有機的にできるシステムと施設の整備が期待される。

「健康日本 21」では、生活習慣病のリスクを少なくし、健康寿命を延ばし、QOLの向上を実現するための具体的目標値を掲げている。二次予防より一次予防に重点を置いた健康づくり運動で、温泉健康保養地はこの運動の受け皿として最適の機能をもっている。

健康保養地（平成 9 年 厚生省検討委員会の報告書）

温泉、森林、海などの自然環境のもつ保健作用を活用し、積極的健康づくり（休養・運動・栄養）のための中長期滞在が可能な宿泊施設、利用者の要望や健康状態を考慮した健康保養プログラム、これらに必要なよく訓練さ

れたマンパワーがある。

地域の文化・伝統へのふれあいや参加を通じて、利用者相互、利用者と地元住民との交流が図れる保養地

健康保養地を構成する施設とシステムは図2で示した。もちろん、各地に全部のシステムを網羅する必要はなくて、その特異性が見られるようにするとよい。

保養プログラム

健康増進効果や生活習慣予防効果が、基本的には医科学的なエビデンスに基づく健康づくり Evidence Based Health Promotion (EBH)の考えに則ることが大切である。利用者の年齢、健康状態、体力、生活習慣、好みなどを考慮した無理の無い、安全で、利用者が選択できたり、自主的に組み立てることの出来るように配慮する。保養期間は5泊6日ほどが望ましいが、2泊3日くらいのプログラムも体験コースとして用意するとよい。

お年寄りには温泉でいきいきと！

温泉施設を有効活用した自治体は、老人医療費の抑制が期待される(平成13年・国民健康保険中央会の検討報告による)

その内容と効果は次のようなものがある。

お年寄りの交流の場

温泉をお年寄りのコミュニケーションセンターにすることにより、外出回数が増し、運動不足や筋の廃用性萎縮を防ぐ。温泉で裸の付き合いでくつろぎ、おしゃべりや趣味を通じて交流する。

温泉プールでの水中運動

腰痛、関節痛の改善・予防、転倒防止、自立支援にも役立つ。楽しみながら行える。

保健活動

医療関係者、栄養士、運動指導士などによる健康診断、健康教育、指導・相談などを行う。

活動支援

自治体は、利用者のための送迎循環シャトルバスサービス、入浴介助サービスなどを提供する。

福祉・介護との関連

ショートステイ、デイケアセンター、訪問看護ステーションなどと連動してサービス体制を広げる。

お年寄りのボランティア活動支援

お年寄りの経験、蓄積された知識を各種趣味の会の指導、森の案内、山菜採取、バードウォッチングなどの指導者になってもらう。

導入するシステムや施設は、その地域の社会・自然環境、などから、ほかにみられない地域特異性が強調されるようなものにする。

表 1 療養泉の生体作用と効能

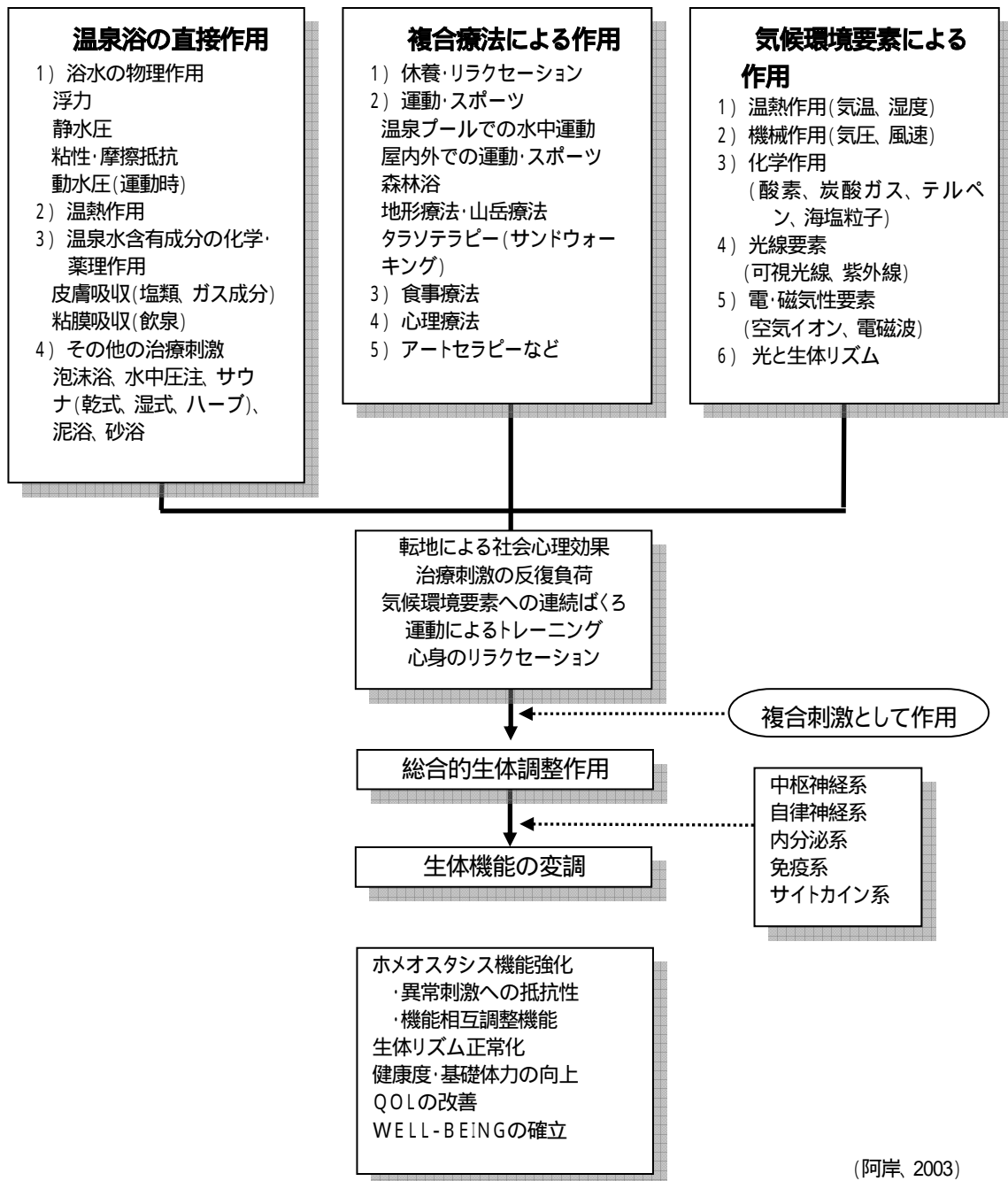
単 純 温 泉	成分はいろいろあるが、塩分濃度が規定値以下と薄く、泉源の温度が25℃以上である温泉。刺激が弱く、作用も穏やかで入りやすく万人向きである。高齢者、病後の回復期の静養、手術や外傷後の療養などにより、飲泉は軽い胃腸炎により。
ナトリウム塩化物泉 (通称・食塩泉)	食塩泉浴では、皮膚についた食塩が体温の放散を妨げて、保温効果が長く続くので「熱の湯」と言われている。食塩泉や海水は殺菌作用が強く、咽頭や上気道の炎症にうがいや吸入が効果的である。アトピー性皮膚炎によく合併する皮膚感染症に効果がある。関節痛、筋肉痛などに効果的である。飲むと胃酸の分泌を整え、腸の運動を活発にするので「胃腸の湯」と言われる。
炭酸水素塩泉 (ナトリウム炭酸水素塩泉は 通称・重曹泉、アルカリ泉)	重曹は皮膚表面の脂肪や分泌物を乳化して軟らかくし、肌を滑らかにするので「美人(肌)の湯」と言われる。浴後に皮膚表面からの水分発散が盛んになって体温放散が強まり、清涼感、爽快感があり、「冷えの湯」とも言われる。浴用の適応は外傷、皮膚病、リウマチ性疾患などである。飲むと胃酸を中和し、発生した炭酸ガスは粘液を溶かし、胃の運動を促進する。胆汁の分泌を促し、肝臓、すい臓の働きを助けるので、ドイツでは「肝臓の湯」として、胆石、慢性胆嚢炎、糖尿病、痛風に用いられる。
硫 酸 塩 泉	ナトリウム硫酸塩泉(ぼう硝泉)、カルシウム硫酸塩泉(石膏泉)、マグネシウム硫酸塩泉(正苦味泉)、アルミニウム(明礬泉)があるが、いずれも保温効果が強く、末梢血管を拡張し、血圧を下げる作用もある。
二 酸 化 炭 素 泉 (炭酸泉)	炭酸ガスの小気泡が肌につく泡が特徴的。末梢血管拡張と血流増加作用が強く、炭酸ガスの濃度が高いほど強くなることが確かめられている。心臓に負担をかけずに血液循環を促進し、「心臓の湯」とも言われる。飲用で胃腸の働きを促す。
硫 黄 泉	末梢血管拡張作用が強く、動脈硬化症、高血圧症、慢性皮膚病、皮膚角化症に適する。硫化水素ガスは痰を切るので、慢性気管支炎、気管支拡張症により、乾燥肌の人には向かない。
酸 性 泉	強い刺激作用がある。抗菌作用を利用して皮膚感染症に適する。皮膚のただれ、湯あたりを起こしやすい。
放 射 能 泉	鎮痛効果があり、末梢循環を促進する。飲用で利尿作用があり、痛風、高尿酸血症、慢性尿路疾患などに適する。

表 2 温泉療法の適応となる疾患・症状

予防医学的応用	慢性疾患
疲労・ストレスの解消 生活習慣病の予防 職業病の予防 積極的な健康づくり	1. 循環器系 : 中等度以下の高血圧症 心不全(温浴+低温サウナ) 末梢循環障害 レイノー症候群
リハビリテーション	2. 呼吸器系 : 気管支喘息 肺気腫 慢性気管支炎
神経まひの機能回復 筋萎縮の防止と機能回復 脳血管障害後遺症 脳外科・整形外科手術後 交通事故・スポーツによる後遺症	3. 消化器系 : 慢性胃炎 Non-ulcer dyspepsia 過敏性腸管症候群 慢性便秘症 慢性胆道炎・胆石症
外科手術の前後に応用 創傷の治癒促進	4. 代謝系 : 軽症糖尿病・肥満 通風 高脂血症
心身症・ストレス関連性疾患	5. 皮膚疾患 : 慢性アトピー性皮膚炎 慢性湿疹 乾癬 真菌症 带状疱疹
生活習慣病に関連した症状 慢性疼痛性障害 機能性不随意運動 神経症 うつ病 自律神経失調症 女性不定愁訴 テクノストレスによる症状	6. 神経系 : 脳血管障害後遺症 末梢神経障害 神経痛 脳性まひ
	7. 運動器系 : 慢性リウマチ性疾患 関節性・筋肉性慢性疼痛 変形性関節症 頸肩腕症候群 腰痛症 振動障害 VDT症候群

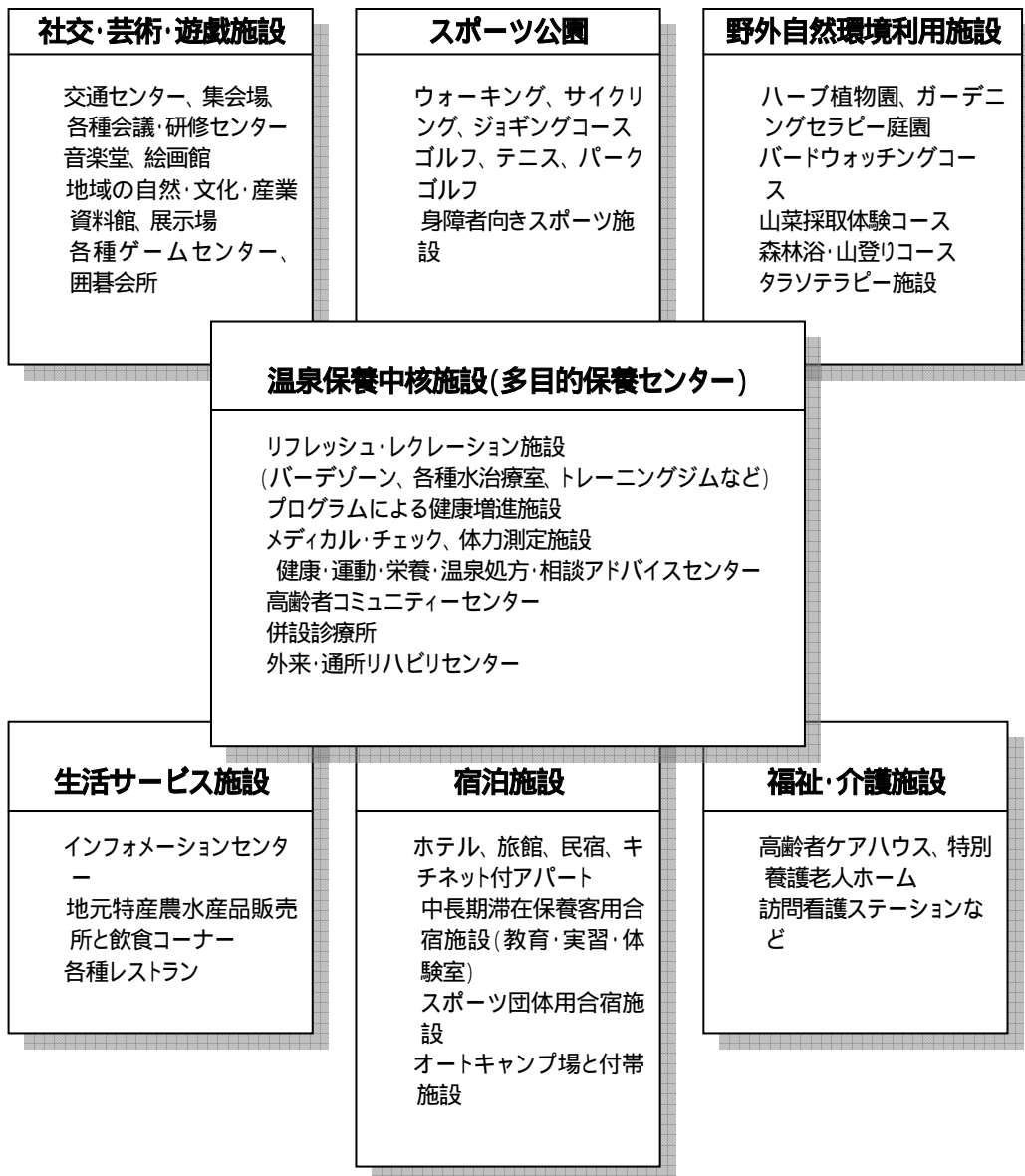
(阿岸, 2001)

図 1 温泉療法のメカニズム



(阿岸, 2003)

図 2 健康保養地を構成する施設とシステム(すべてバリアフリー)



マーケティングの視点から

社団法人日本アロマ環境協会理事
環境委員会委員長
宇田川 僚一

- 1、アロマセラピーとは
- 2、ヨーロッパに於ける普及
- 3、アロマセラピー日本での普及とその背景
 - ・ハーブマーケットありき
 - ・ハーブガーデンの出現
 - ・町おこし、村おこし
 - ・全国ハーブサミット
 - ・アロマセラピーの登場
- 4、日本アロマセラピー協会
 - ・組織づくり、仕組みづくり、活動づくり
 - ・内的活動（シンポジウム、会報誌、学雑誌、地区活動、集い、等々）
 - ・外的活動（アロマの日、SE P活動（香育）、ボランティア活動、等々）
- 5、社団法人日本アロマ環境協会の発足
 - ・アロマ環境の定義と環境を意識した活動
（かおり風景100選、新宿御苑100周年記念事業、環境の街づくり）
- 6、他団体との連携
 - ・環境福祉学会
 - ・森林セラピー研究会
 - ・（社）におい・かおり環境協会
 - ・（社）エコツーリズム協会
 - ・JACT（日本代替・相補・伝承医療学会）
 - ・日本エステティック協会
 - ・他